

とちぎ地域おこし協力隊 まるごとプラットフォーム R6年度 活動報告



とちぎ地域おこし協力隊まるごとプラットフォームとは

県内の隊員同士のゆるやかなつながりの中で、連携を図ることにより、地域協力活動の充実とともに、定住定着を促進することを目的として、R6年7月に創設されたプラットフォーム（PF）です。全体会での意見交換や活動報告のほか、5つのグループに分かれて活動しています。



活動情報は県 HP でも公開しています。



交流会

イベント企画

情報共有ツール

移住定住・空き家

農林業



栃木県地域振興課 地域づくり支援担当

目次

全体会	・ ・ ・ 3
交流会	・ ・ ・ 6
イベント企画	・ ・ ・ 9
情報共有ツール	・ ・ ・ 12
移住定住・空き家	・ ・ ・ 14
農林業	・ ・ ・ 17



全体会

第1回全体会（R6.7.9）



知事挨拶から始まり、PF 参加メンバーの自己紹介、県から PF の制度の説明を行いました。

最後にグループごとに活動計画の検討を行いました。その後の活動に向けてアイデアがたくさん出て活発な議論が行われました！

はじめて顔を合わせた隊員同士もいましたが、次第に打ち解けていました。



グループごとに意見交換や情報共有



ファシリテーターの矢板市協力隊経験者
手塚将之氏

第2回全体会（R7.2.14）



各5グループが、活動内容、成果、次年度に向けた反省点を発表しました。様々な活動からそれぞれが自分のミッションや退任後につながる知見やつながりを得られたようです。

意見交換では次年度の活動でやってみたいことについてアイデアを出しました。

最後は栃木の「」で集合写真📷



グループ活動の発表



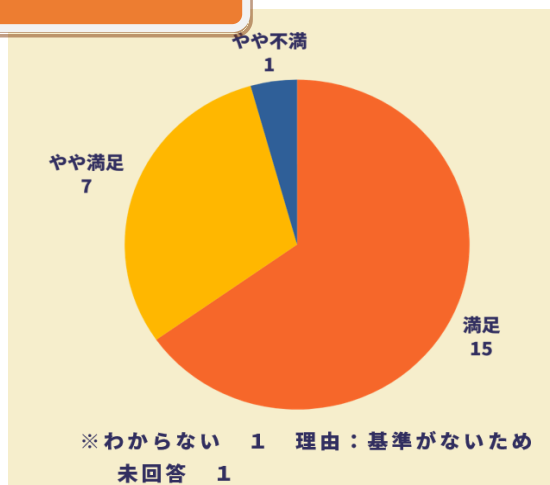
次年度の活動に向けてアイデア出し



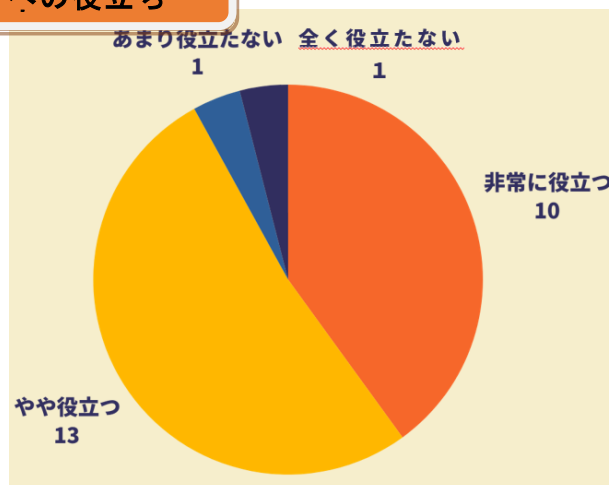
全体に発表

【アンケート結果（回答者：PF 参加隊員 25 名）】

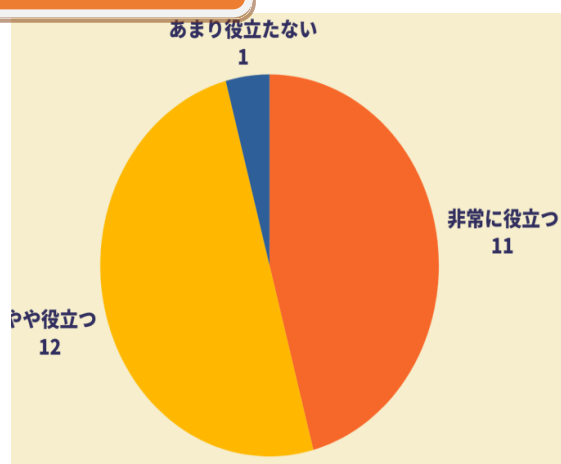
全体満足度



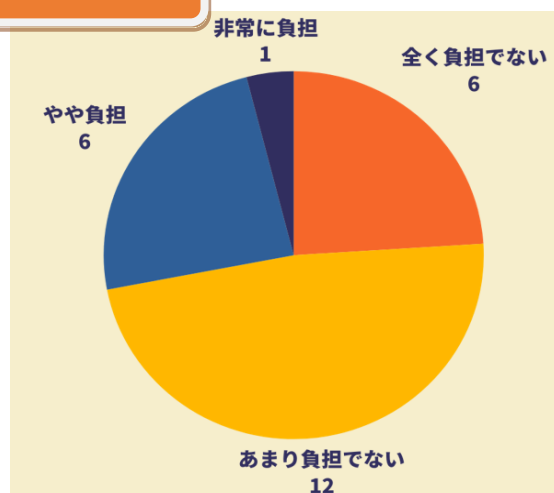
ミッションへの役立ち



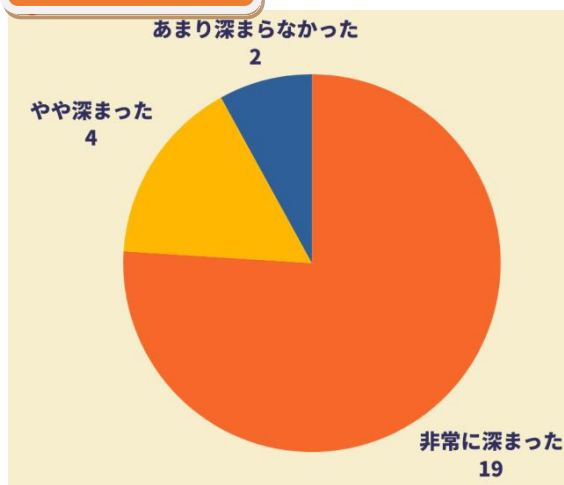
退任後への役立ち



負担感



交流



参加者からの意見

- ・とても慌ただしいスタートだったが充実した活動内容だった。
- ・もっと多くの隊員に参加してほしい。参加のメリットをPRしていきたい。
- ・負担を分散してみんなで取り組んでいきたい。



1 交流会

目的

- ・ 隊員同士のつながりや絆を深める。退任後も助け合える関係を築く。
- ・ お互いの活動内容の共有、情報交換
- ・ 活動時における課題や悩みの共有と解決策の提案・模索
- ・ 地域の魅力を知る。
- ・ 地域の現役隊員や経験者の活動を知る。

メンバー 9名（◎全体リーダー、○企画リーダー）

市町名	氏名	ミッション
日光市	長谷川 久乃	森林保全・木材普及促進
矢板市	福田 麗	ふるさと支援センターTAKIBI の運営
矢板市	貝塚 直仁	観光誘致
益子町	六本木 信幸	町公式 SNS の運用、町内回遊性向上施策の実施 等
○塩谷町	高村 亮	有機農業の推進、PR
那須町	伊東 可奈	空き家・移住定住
那須町	上原 淳	事業者活性化のキャリア支援開発 等
◎那珂川町	須藤 ゆう	農産加工品の商品化 等

活動内容・スケジュール

・活動検討会（交流会企画や振り返り等） 月 1 回程度

・視察研修交流会

目的：地域おこし協力隊経験者の活動場所や地域の魅力的な場所の視察を行い、地域に対する知見を深めるとともに、自身の活動に対する意見交換や振り返りを行う。交流会を通じて隊員同士の絆を深める。

内容：道の駅しもつけ、吉田村 village、天平の丘公園、10 ピクニックテーブルの視察

下野市協力隊経験者鈴木氏訪問 シェアスペース紹介、事例共有

ワークショップ（活動紹介、意見交換、振り返り）

参加者数：現役隊員 19 名

・自分 PR 交流会・特産品 PR 懇親会

①自分 PR 交流会

目的：自分自身を振り返り、現役隊員や経験者からの解決策やアドバイスをもらうことで、具体的な課題を見つけ、自身のさらなるステップアップに繋げるとともに、交流を深める。

内容：自分自身のミッションや起業に関すること等を参加者に向けてプレゼンテーションした後、ディスカッション形式による意見交換を行う。

参加者数：現役隊員 20 名、経験者 6 名、招待者 2 名

②特産品 PR 懇親会 ※自分 PR 交流会と同日開催

目的：「食」にスポットを当て、所属市町の特産品を PR することで地域内だけでなく、他地域からの視点も加えることで、特産品の魅力を高め、地域活性化に繋げる。隊員同士の親交を深め、退任後も助け合える関係性を築く。

内容：地域の食に関する特産品、農産物等の PR

参加者数：現役隊員 15 名、経験者 5 名、招待者 2 名

月	活動内容
8 月	活動検討会①（年間計画の検討） 活動検討会②（視察研修交流会の企画）
9 月	活動検討会③（視察研修交流会の調整）



10 月	視察研修交流会 活動検討会④（振り返り、自分 PR 交流会企画）
11 月	活動検討会⑤（自分 PR 交流会等の調整）
12 月	自分 PR 交流会・特産品 PR 懇親会
1 月	活動検討会⑥（振り返り、発表準備）



成果・反省

【成果】

- ・ 他市町の隊員とのつながりが強くなった。情報共有や相談できる相手が増えた。
- ・ 自分の事業に参加してもらったり、イベントで連携したり活動分野を活かしマッチングできた。
- ・ 自分ではつながりにくい経験者や地域の事業者とつながることができた。
- ・ 他市町の隊員や経験者から、今後の活動にプラスになる知見を得て、やっていきたいことが広がった。
- ・ 栃木県の他の地域を知ったことで、自分の地域の良さも改めて知ることが出来た。

【反省・次年度に向けた検討】

- ・ もっと多くの隊員に参加してもらえよう、参加するメリットを PR していきたい。
- ・ 色々な地域を回り、現役隊員から自分の活動や地域紹介してもらおうなど、普段参加しない人を巻き込む企画をする。
- ・ インプットが多いので、個人のアウトプットが出来る場を増やしていきたい。





2 イベント企画

目的

- ・それぞれの隊員の活動テーマで取り組んでいる課題に対して、全県的に協働で取り組むもしくは、取り組むきっかけになる活動を行う。
- ・栃木県で活動する地域おこし協力隊として、栃木県や各市町の紹介をする。
- ・それぞれの隊員の任期中・任期後のためになる活動を行う。

メンバー 13 名（◎全体リーダー）

市町名	氏名	ミッション
矢板市	福田 麗	支援セふるさとセンターTAKIBI の運営 等
さくら市	住谷 貴之	道の駅きつれがわの活性化
さくら市	八木 孝	農業研修及び農業 PR
さくら市	篠宮 諒	農業研修及び農業 PR
那須塩原市	北村 龍史	脱炭素先行地域の構築
那須烏山市	武田 真悠香	シティプロモーション
◎那須烏山市	長岡 周平	関係人口創出、空き家利活用
益子町	六本木 信幸	町公式 SNS の運用、町内回遊性向上施策の実行 等

塩谷町	廣井 佑一郎	スプレーマム農業研修
塩谷町	高村 亮	有機農業の推進、PR
那須町	上原 淳	事業活性化のキャリア開発支援 等
那須町	尾崎 真弥	ふるさと納税推進
那珂川町	須藤 ゆう	農産加工品の商品化 等

活動内容・スケジュール

- ・活動検討会（イベント準備や振り返り） 月1～2回程度
- ・1月13日（月・祝）マルシェイベント「TOCHIOKO TE to TE MARKET」を開催
 - 目的：全県の地域おこし協力隊や経験者をPRする
 - 場所：栃木県庁県民広場
 - 内容：①協力隊PRブース：県内9市町、10ブースが出店
（鹿沼市、日光市、矢板市、那須塩原市、さくら市、塩谷町、那珂川町、那須町、市貝町）
 - ②地域おこし協力隊紹介パネル展示：R6年度地域おこし協力隊PR集をパネルに展示

月	活動内容
8月	活動検討会①②（年間計画の検討）
9月	活動検討会③④（イベント企画）
10月	活動検討会⑤（イベント企画） 活動検討会⑤（イベント準備）
11月	活動検討会⑥（出店者募集準備）



12 月

活動検討会⑦（マニュアル等作成）

1 月

活動検討会⑧（会場下見）

「TOCHIOKO TE to TE MARKET」開催

2 月

活動検討会⑨（振り返り、発表準備）



成果・反省

【成果】

- ・多くの来場者に加え、新聞やテレビなど複数のメディアに取り上げられるなど、イベントにより協力隊や各市町の PR につながった。

【反省・次年度に向けた検討】

- ・出店者募集から周知、実施までのスケジュールがギリギリだったので、余裕を持ったスケジュールを組みたい。
- ・アンケートで「もっと協力隊のイベントであることをアピールした方が良い」という回答が多かったため、看板やチラシなどを用いてより積極的に地域おこし協力隊のイベントということをアピールする。
- ・今年度の反省を踏まえ、来年度も地域おこし協力隊を対外的に PR したり、外部との関係構築を促進するイベントを開催していきたい。





3 情報共有ツール

目的

- ・とちぎ地域おこし協力隊まるごとプラットフォームにおける各グループ間の情報共有の促進
- ・協力隊活動のノウハウの蓄積
- ・オンライン上での交流施策
- ・県内隊員全員の参加に向けた促進施策

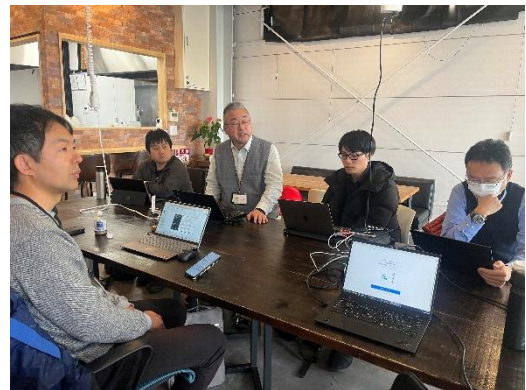
メンバー 8名

市町名	氏名	ミッション
矢板市	福田 麗	ふるさと支援センターTAKIBI の運営 等
矢板市	四十万 直人	ふるさと納税、ふるさと支援センターTAKIBI の運営
那須烏山市	長岡 周平	関係人口創出、空き家利活用
益子町	六本木 信幸	町公式 SNS の運用、町内回遊性向上施策の実施 等
塩谷町	廣井 佑一郎	スプレーマム農業研修
塩谷町	高村 亮	有機農業の推進、PR
那須町	上原 淳	事業活性化のキャリア開発支援 等
那須町	尾崎 真弥	ふるさと納税推進

活動内容・スケジュール

- ・活動検討会（ツールやルール等の検討）3回
- ・必要要件から使用するツールを検討し、Slackに決定
- ・グループ内で試験運用(12月)ののちにプラットフォームで試験運用を実施
次年度の継続利用に向けた評価を行っていく。

月	活動内容
10月	活動検討会①（ツールの検討）
11月	活動検討会②（ツールの検討）
12月	活動検討会③（ルール等の検討）
1月	Slackの試験運用開始（～3月）



成果・反省

【成果】

- ・必要要件とセキュリティ要件を満たすツールとして、Slackを選択
- ・グループ内で試験運用ののち、プラットフォーム全体へ展開
- ・プラットフォーム及び参加希望者にて1月～3月の期間で運用開始

【反省・次年度に向けた検討】

- ・Slackの継続的な利用に向けて、情報共有の活発化のための取組や資金等を検討していく。



4

移住定住・空き家

目的

- ・ 隊員同士の情報交換や県内外の先進地への視察、イベント実施等により、各市町への移住促進や空き家活用等につなげる

メンバー 7名（◎全体リーダー）

市町名	氏名	ミッション
日光市	沼田 英治	移住定住の推進
大田原市	林田 恭三朗	移住定住促進
矢板市	坂和 紀明	移住定住の推進
さくら市	篠宮 諒	農業研修及び農業 PR
那須烏山市	長岡 周平	関係人口創出、空き家利活用
◎那須町	伊東 可奈	空き家・移住定住
那珂川町	山崎 海	移住定住

活動内容・スケジュール

- ・活動検討会（企画の準備等） 月 1 回程度

・先進地視察

目的：地域おこし協力隊員が、移住定住や空き家業務の先進地を視察し、知見を深めて自身のミッションにフィードバックすることにより、地域活動の充実を図る。

内容：・足利市移住・定住相談センター「En no sita - 燕のした」

移住支援員から足利市の移住定住の取組や実績等について説明、意見交換

- ・足利市利市地域おこし協力隊経験者 木村沙和氏 訪問

運営するレンタルスペース「なべのそこ」での取組説明、まちあるき

参加者数：現役隊員 10 名、自治体職員 6 名

・先進事例講演会

目的：先進的な取組について活動事例の紹介を聞き、意見交換を行うことで移住定住の促進や空き家の利活用に関する知見を深め、地域活動の充実を図る。

内容：群馬県から移住定住促進や空き家活用に取り組む方をお呼びし、講演会を実施

- ・活動紹介①群馬県みどり市現役協力隊 矢倉氏
- ・活動紹介②中之条町移住・定住コーディネーター 村上氏
- ・ミッションや市町での課題を共有するグループトーク
- ・講演やグループトークから自身の活動にどう活かすかを発表するビジョントーク

参加者数：現役隊員 8 名、自治体職員 8 名

月	活動内容
7 月	活動検討会①（年間計画の検討）
8 月	活動検討会②（視察の企画）
9 月	先進地視察@足利市



10 月 活動検討会④（先進地視察振り返り）
活動検討会⑤（講演会の企画）

1 月 先進事例講演会

2 月 活動検討会⑥（振り返り、発表準備）



成果・反省

【成果】

- ・ 県南地域の情報や取り組み、住相談窓口の運用や移住セミナー等のイベントでの見せ方等のスキルを知り、各市町で活かしていけるような新たな視点での考え方ができるようになった。
- ・ 協力隊経験者の体験談や現状を聞いて、退任後の地域への定着のイメージがしやすくなった。
- ・ 他県で活躍されている方の移住定住や空き家活用の取り組みを具体的に聞いたことで、もっと大きな視野でミッションを見ることができるようになった。
- ・ グループワークで課題を共有し、意見交換をしたことにより、多くの発見があった。

【反省・次年度に向けた検討】

- ・ グループ活動内容のイメージが湧きにくく、全体的にメンバーの積極性が不足していた。
- ・ ツアー、講演会での内容や時間配分等に課題があった。
- ・ 各隊員のメリットとなるように進めていきたい。また、「移住者と移住希望者の交流会」を検討していきたい。





5

農林業

目的

- ・ 隊員同士の情報交換や先進地の視察により、課題の共有・解決、自身のミッションへのフィードバックによる農業・林業の推進、販売促進 PR につなげる。
- ・ 隊員同士で仲を深め、退任後も協力し合える関係を築く！

メンバー 13 名（◎全体リーダー）

市町名	氏名	ミッション
日光市	長谷川 久乃	森林保全・木材普及促進
日光市	加藤 葵	観光振興
矢板市	佐川 一郎	地域産木材利用、唐辛子栽培等
矢板市	室井 拓也	林業振興、地域木材の活用
さくら市	篠宮 諒	農業研修及び農業 PR
さくら市	永谷 嘉規	農業研修及び農業 PR
さくら市	八木 孝	農業研修及び農業 PR
さくら市	吉家 雅人	農業研修及び農業 PR
塩谷町	廣井 佑一郎	スプレーマム農業研修

塩谷町	高村 亮	有機農業の推進、PR
◎塩谷町	鈴木 雄太	有機農業の推進、PR
塩谷町	齋藤 亮賢	スプレーマム農業研修
那珂川町	須藤 ゆう	農産加工品の商品化 等

活動内容・スケジュール

・情報交換会 月1回程度

目的：ミッションや退任後に係る知見の獲得や情報共有を行い、課題の解決を図る。

内容：・情報交換（議題：PR 方法・出店の工夫、害虫雑草対策、販売価格、退任後のプラン設計等）
・創業支援、就農支援制度の説明、相談

・視察研修会（福島県：株式会社一十八日等）

目的：先進的な取組について視察や意見交換を行うことで木材加工業等に関する知見を深め、自身の活動にフィードバックすることにより、地域活動の充実を図る。

内容：株式会社十八日視察（取組説明、アロマスプレーワークショップ、蒸留所）、木工製品のお店見学等

参加者数：現役隊員 13 名

・視察研修会（茨城県：JA やさと）

目的：先進的な取組について視察や意見交換を行うことで農業（特に有機農業）に関する知見を深め、自身の活動にフィードバックすることにより、地域活動の充実を図る。

内容：JA やさと取組説明、研修圃場視察、ネギ農家・にんじん農家視察、直売所見学

参加者数：現役隊員 11 名

・視察研修会（栃木県益子町）

目的：協力隊経験者を訪問し、任期終了後就農した事例から、協力隊活動から就農のプロセスや課題を学ぶ。また、サシバの里自然学校や道の駅ましこの加工所見学等により、農林業の体験や6次産業化などの知見を得る。

内容：合同会社の（益子町経験者 仁平佑一氏、彩香氏）、道の駅ましこ、サシバの里自然学校等

参加者数：現役隊員 9 名

月	活動内容
7 月	意見交換会（年間計画の検討）
8 月	情報交換会①（情報交換）
9 月	情報交換会②（情報交換、視察の検討）
10 月	情報交換会③（情報交換、視察の検討）
11 月	情報交換会④（創業・就農支援制度）
12 月	視察（福島県：株式会社一十八日等）
1 月	視察（茨城県：JA やさと） 情報交換会⑤（振り返り、発表準備）
2 月	活動検討会⑨（振り返り、発表準備） 視察（益子町）



成果・反省

【成果】

- ・勉強会では、退任後の就農、起業に役立つ内容が多く、特に補助金については専門家とお話する機会を設けていただき、様々な情報を知ることができた。
- ・視察については、福島県で林業系の隊員とのコラボ商品が生まれたり、茨城県の有機農家から栽培技術を直接学べたりと充実した内容だった。

- ・ 農業体験など自身の取り組みたい内容について話を聞くことができ、コンセプトや活動内容など参考になった。
- ・ 経験者の話を聞くことで、協力隊任期から退任後に向けた課題や、行政や地域の方との関わり方など今後の自分がどうありたいのかを考えるきっかけとなった。
- ・ 勉強会、視察を通して隊員同士の仲が深まり、今後も協力し合える関係を築くことができた。

【反省・次年度に向けた検討】

- ・ 農業の中でも花卉や米、野菜など様々な分野の隊員がいるため、すべてを網羅することが難しかった。
- ・ 他の隊員の圃場見学や、県外のイベントにも参加してみたい。